

8月9日 総務環境委員会（くれまつ順子副委員長・柴田民雄議員）

名古屋市が災害廃棄物処理計画（案）を提案

大震災でがれき789万トンを想定

8月9日の総務環境委員会で、名古屋市は南海トラフ巨大地震などの災害にそなえた、「災害廃棄物処理計画（案）」について説明しました。

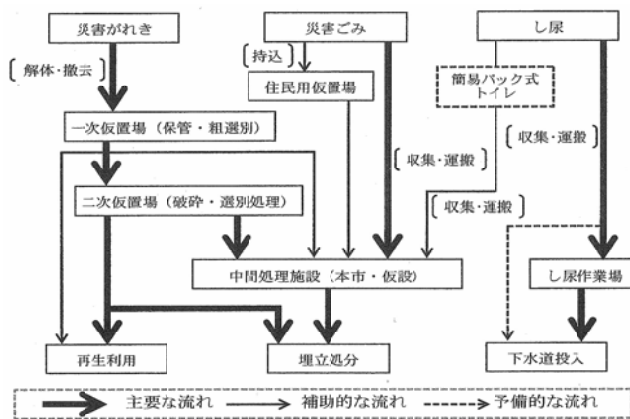
南海トラフ地震などに対応

地震災害では過去の地震を考慮した最大クラスの地震を想定し、震度6強、津波水位3.3mの下で地震や津波尾によって発生する災害廃棄物を789万トンなど想定し、がれきの仮置場や仮設焼却場の必要性、ゴミやし尿に処理方針などが示されました。

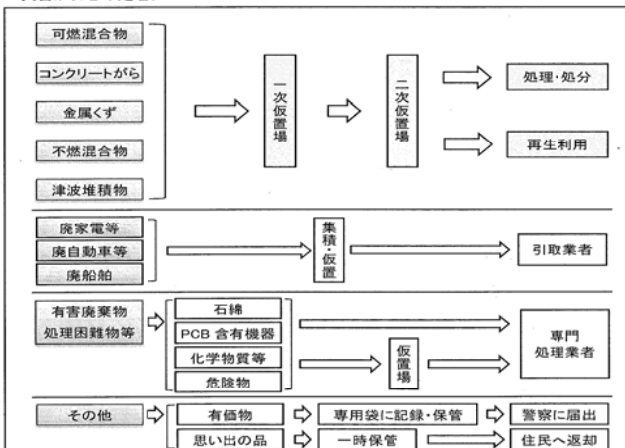
仮設焼却炉の必要能力等

区分	必要能力等	
選別処理後の可燃物量（焼却必要量）	75万トン	
本市焼却工場の処理可能量	35万トン／3年	
仮設焼却炉	必要処理量（既設の不足分）	39万トン
	処理能力（2年稼働処理量）	650トン／日（40万トン）

処理に要する期間を3年（建設期間1年間、年間310日×実稼働2年間）とした場合



災害がれきの処理フロー



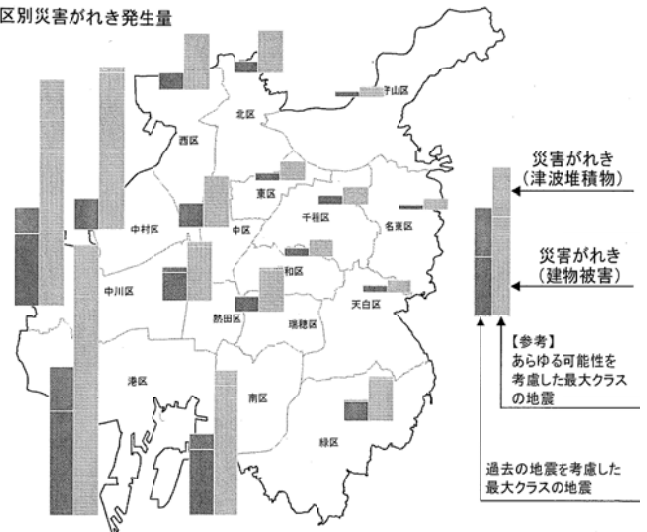
しっかりした計画づくりを

柴田民雄議員は、がれきの一次、二次置き場をどこにするかなどはこれからの折衝ということなどの不安を指摘しつつ、「港区など港湾地域が、津波などの大きな被害が想定されている。市内のごみ処理で不平等感のないような、助け合いができる計画をしっかり作ってほしい」と要望しました。

災害がれき発生量及びその内訳

種類	過去の地震を考慮した最大クラスの地震	【参考】あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震
災害がれき（建物被害）	644万トン	1,572万トン
全壊	225万トン	733万トン
半壊	343万トン	511万トン
火災焼失	68万トン	321万トン
床上・床下浸水	7万トン	5万トン
災害がれき（津波堆積物）	144万トン	187万トン
合計	789万トン	1,759万トン

区別災害がれき発生量



パブリックコメント募集

この計画案は9月29日までパブリックコメントを募集し、10月にも計画として公表される予定です。災害がれきやゴミ処理等について意見を名古屋市に出しましょう。素案などは市のホームページ <http://www.city.nagoya.jp/kankyo/page/0000085838.html> を。